

1. 総裁賞

氏名	住所	受賞理由
<p>おおつか じゅんいち 大塚 潤一</p>	<p>かごしまけん かごしまし 鹿児島県鹿児島市 にししいき 西伊敷6丁目22 -12</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和44年から本県の自然環境保全審議会委員(鳥獣部会長)及び文化財保護審議会委員(現副会長)として長年にわたり、鳥獣保護や文化財保護(特に天然記念物の保護)のため専門的立場から、適切な指導助言を行い、特にアマミノクロウサギやツルなどの野生動植物保護の面において、大きな功績を残している。また、その間、九州各県自然環境保全審議会鳥獣保護連絡協議会会長を十余年務めている。</li> <li>昭和52年には、国指定特別天然記念物「アマミノクロウサギ」の初めての生息分布状況調査を責任者として実施し、その後の保護対策に大きく貢献している。また、昭和56年には、屋久島の固有種であるヤクシカの初めての生息調査を責任者として実施し、その後の保護・管理計画に尽力している。</li> <li>平成5年からの環境省奄美諸島希少野生生物生息実態調査検討委員会においては、独特な生物相が発達している奄美諸島の固有種の保全対策として、生息地の核心部分の保護や、マングース等の駆除・制御のための対策等を報告書としてまとめ、奄美諸島固有の野生生物の保護に尽力した。</li> <li>鹿児島県希少野生生物調査検討委員会においては、座長として平成14年度の鹿児島県版レッドデータブック作成に向け尽力しているほか、本県の各種環境調査検討委員会において野生生物保護の立場から適切な指導助言を行っている。</li> <li>研究者として、動物の解剖学において骨格について研究し、国内外の動物の系統解析を行った。特に「アマミノクロウサギ」の解剖学的研究者として著名である。この研究は、その後の骨からの遺伝子研究の基礎を築いた。また、日本獣医学会評議員を20年務めたほか、日本畜産学会賞受賞候補者選考委員などを歴任し、動物の解剖学の発展に貢献している。</li> </ul>
<p>いむら たけし 飯村 武</p>	<p>かながわけん よこはまし あさひ 神奈川県横浜市旭 く なかざわ 区中沢3丁目32 -21</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和28年神奈川県に奉職し現在に至るまで、ニホンジカの生態に関する研究に携り、神奈川県の日沢山塊を中心として研究活動を行い、「日沢山塊のシカ個体群と森林被害ならびに防除に関する研究」(1980年大日本山林会)を初めとした、多くの論文や書籍を発表するなどして、神奈川県におけるシカ問題の課題解決に向け貢献している。</li> <li>平成9年より環境庁(現環境省)鳥獣管理・狩猟制度検討会座長をつとめ、平成11年度に改正された「鳥獣保護及び狩猟に関する法律」の改正により位置づけられた「特定鳥獣保護管理計画」の制度化等に尽力された。</li> <li>昭和62年より、現在まで、神奈川県森林財団(元森林づくり公社)が推進する県民参加の森林づくり活動を支える「森林づくりインストラクター」を養成していくため、初代チーフ森林インストラクターに任命され、養成講座の講師として、神奈川県における、県民参加の森林づくり活動の推進に貢献している。</li> <li>昭和63年より、現在まで、神奈川県自然保護協会の常任理事をつとめ、県民参加の自然環境の保護に多大な貢献をしている。</li> <li>神奈川県環境保全審議会委員、鎌倉市環境政策専門委員を初めとした、多くの政策検討委員会等の委員として参画され、自然環境を保全するための政策決定に大きな貢献をしている。</li> </ul>